

今月の星空



川口市立科学館

Kawaguchi Science Museum



tel 048(262)8431

<http://www.kawaguchi.science.museum/>

1月

(2026年)

中旬 20時頃

北

星図の見方

自分が見ている方角を下(東の空を見るときは東を下)にして、頭の上にかざして見ます。

西

南

東

- 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星
- 星座線
- × 天頂
- () 星の名
- 天の川

- 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星
- 星座線
- × 天頂
- () 星の名
- 天の川

①～⑦ 冬の星座の1等星

月齢

○ 満月 3日、● 下弦 11日、● 新月 19日、○ 上弦 26日

惑星情報

木星 夜のはじめ頃 東(ふたご座 -3等)

土星 夜のはじめ頃 南西→西(みずがめ→うお座 1等)



(※) 馬頭星雲(オリオン座)

提供: T.A.Rector (NOIRLab/NSF/AURA) & Hubble Heritage Team(STScI/AURA/NASA)

★2026年は七つの冬の1等星めぐりから

5日に小寒、20日に大寒を迎える、寒さの極まる季節です。澄み切った夜空には冬の星座が広がっています。冬の星座には川口市から見られる1等星が7つもあります。晴れの日が多い正月や冬休みには、「七福神めぐり」とともに、上の星図手に「七つの冬の1等星めぐり」をしてみませんか。

【おすすめの観望ルート(星図参照)】…紅白の1等星が輝くオリオン座からスタート。目印の三つ星を見つけて、その上下にある①ベテルギウス(赤色)と②リゲル(白色)を見つけてましょう。次に、三つ星の並びを西側に延ばした先、南の高いところに、おうし座の③アルデバランがあります。名所の「すばる(プレアデス星団)」に立ち寄ることをお忘れなく。そこから北の空に向かって天頂を越えると天の川のほとりに、ぎょしゃ座の④カペラ。東に下ると、ふたご座の明るい2つの星、⑤ポルックスとカストル(2等)が並んでいます。今季のふたご座には、ひと際明るい木星(-3等)があり目を引くでしょう(来季はしし座へ移る)。ここまで来たら、最後は南へ向かって、冬の大三角をつくるこいぬ座の⑥プロキオン、そして、星座をつくる星の中で最も明るいおおいぬ座の⑦シリウスをたどってゴールです。

★「午年(うまどし)」にちなんで夜空に馬を探そう

今年の干支は午(うま)。この午などの十二支は方角や時刻を表すときに使われてきました。例えば、子(ね)は北、午は南を表し、北極と南極を結ぶ線は「子午線」と呼ばれます。また、午の刻は、昼の12時を中心とした約2時間のことですし、現在でも「正午/午前/午後」の表記でおなじみです。

さて、星空に馬を探してみましょう。星座では、秋を代表する「ペガスス座」とその隣に「こうま座」(上の星図では地平線の下)があります。また、冬の大三角付近に、「いっかくじゅう(一角獣)座」があります。これは額に1本の角を持つ馬に似た空想上の動物「ユニコーン」がモデルです(右図)。この星座は市街地では見つけるのが難しい4等より暗い星しかなく、まさに幻の星座と言えます。また、オリオン座にある暗黒星雲(星図の■及び右上図参照)は、その形が馬の頭にそっくりなため、通称「馬頭星雲」と呼ばれ、よく知られた天体の1つです。



いっかくじゅう座